

令和5年度 第1回丹波市「トライやる・ウィーク」推進協議会会議録:要旨

- ◇開会 令和5年5月29日(月)午前11時00分
- ◇閉会 令和5年5月29日(月)午後12時25分
- ◇会場 丹波市教育委員会(山南庁舎)3F 大会議室
- ◇出席者 ・推進協議会委員 安田真理(委員長)、横山真弓、上羽裕樹、中川卯衣
小林宏明、谷川慎也、宮野さおり、田口勝彦、坂谷高義
日下智之、田村奉千、石塚和彦
・事務局 片山則昭(教育長)、池内晃二(学校教育課長)、
平瀬憲利(指導係長兼指導主事)
- (以上15名)
- ◇欠席者 ・推進協議会委員 大木康次
- (以上1名)

<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 (片山 則昭 教育長)</p> <p>3 委員の委嘱</p> <p>4 委員の紹介</p> <p>5 令和4年度の取組について(報告) (安田 真理 委員長)</p> <p>(中川 卯衣 委員)</p>	<p>(令和4年度取組について事務局から説明)</p> <p>トライやる・ウィークの取組について報告を受け、アンケート内容、成果、課題についてご質問、ご意見がありましたらお願いします。</p> <p>それぞれの立場で率直なご意見をいただけると助かります。ご協力お願い致します。</p> <p>教職員アンケートの中で予算取りに大変苦勞して自己負担で賄った部分もあると書いてあるのですが、これは問題じゃないかと思うがどうでしょうか。先生が自己負担されたということでした。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>ようか。それは事業所とのすみ分けみたいな、そういう部分での自己負担でしょうか。これは何に対して自己負担になってしまったのか。それは改善できることなのか知りたいと思います。</p> <p>こちらで把握しているところで答えると、それぞれの学校で予算のやりくりをしているところがあるので、学校事務の方と担当教員とが連携して予算の中におさめることができたと思っております。</p>
<p>(池内 晃二 次長)</p>	<p>予算の件ですが、これはおそらく小規模校のことが書いてあると思います。この事業には、県の交付金というものがあり、1クラスあたり15万円のお金がつきます。</p> <p>おそらく、この学校は、1クラスしかなくて、その15万円に収まりきらずに自己負担とかかかっているが、個人が持っているお金ではなく、学校予算のことで、学校が持っているこのトライやるで使うべきお金ではないところから学校の負担として賄ったということです。</p> <p>ただ、氷上中学校は5クラスありますので、もっと多くの金額があります。市全体として交付金をいただいておりますから、そこでやりくりをしながら調整し、最終的には交付金の範囲で調整できたと思っております。個人で自己負担するようなことは、絶対しておりません。ここに、校長先生もいらっしゃいますけど、そんなことは絶対させていないと思います。</p>
<p>(石塚 和彦 委員)</p>	<p>欠席ということで7名が表記されています。この欠席につきましては、病欠での欠席なのか、当初から参加を拒否されたものなのか、お聞きしたいのでお願いしたいと思います。</p> <p>もし、その当初から参加を拒否されたのであれば、子どもと保護者に対して、十分、合意形成を</p>

<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>図っての欠席だったのか、その辺をお伺いしたいです。</p> <p>欠席者につきましては、普段から、なかなか学校の方に出席できていないという生徒とその時に体調不良になったということで欠席した生徒と両方あると思います。この数字の内訳をこちらで把握できてないところがあります。</p> <p>ただ、普段の学校生活にも出席することができなかつた生徒が大半だと思っています。このトライやるの目的の一つに不登校の生徒が参加するという機会にしたいというがあるので、各学校の担当者や担任が不登校生徒に働きかけをして、なんとか出席できるように、事業所の方とも連携しながら準備までは進めたけれども、最終、やっぱり出席できなかったという生徒が大半かなというふうには思っています。</p>
<p>(小林 宏明 委員)</p>	<p>この欠席というのは、期間中に一日でも欠席したということではないと思います。全日欠席するというのは、今、説明があったように、普段から不登校傾向で学校を休んでいるということだと思います。</p> <p>本校は、1名あがっているが、直前に骨折のケガをした子だと思います。そういうケガの場合もあると思っています。</p>
<p>(谷川 慎也 委員)</p>	<p>不登校傾向で、普段学校に登校できていない生徒が、トライやるを機会に登校できるようになったという事例もあります。そういう意味では非常にいい取組なのかなと思っています。</p> <p>不登校傾向で、何とかいけたらという取組をしていたが、結果的に参加できなかった生徒の数かなと思っています。</p>
<p>(片山 則昭 教育長)</p>	<p>重複しますが、教職員アンケートで「不登校生</p>

	<p>も意欲的に参加する機会となったのは、やはり、この事業が持つ魅力だと思いました。」と書いてあるように、今、先生がおっしゃったような中味のことの方が多いかなというふうに思います。</p>
<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>保護者アンケートで受け入れ可能だが打診がなかった事業所があった、ホームページ募集を行ってはどうかとあるけれども、昨年、どのような形で募集が行われていたのか説明いただけないでしょうか。</p>
<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>保護者アンケートで出ていることについて、例年、教育委員会もしくは学校で新しい事業所がないかということで、いろんな方法で探っているところがあります。</p> <p>今年度、新たにお問い合わせしたこととしては商工会が広報チラシを出される時に、このチラシの一部にトライやる・ウィークがあるので、もし受入可能なところがあれば言って欲しいという内容を掲載し、学校教育課を窓口として募集をしたということがありました。</p> <p>もう一つは青年会議所に定例の会議の中で、「トライやるウィークに向けて事業所開拓を行っているので、もし受け入れることができる事業所があれば、手を上げて欲しい」という依頼文を配付してもらいました。</p>
<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>一つお尋ねしたいのですが、ホームページ等で募集をおこなうという件に関して、今後、このような検討をされる機会などありますか。</p>
<p>(小林 宏明 委員)</p>	<p>ホームページで募集することは、だいぶ準備がしているのではないかと思います。全く不可能ではないと思いますが、既にたくさんの方にお世話になっているところもありますので、せっかく手を挙げて頂いたのにお断りをしないといけ</p>

<p>(上羽 裕樹 委員)</p>	<p>ないというふうなこともありますので、そのあたりは今後の検討課題ではないかと思います。</p> <p>教職員のアンケートについてですが、昨年もそうだったと思いますが、事務等の負担が多いということ、実際の事業所開拓での推進委員会さんとの連携のこと、予算のことがあがっています。昨年、先生に直接、説明を受けたと記憶しているが、この辺りの現場の実際の運営にかかることをアンケートで取らないと、推進委員会の連携が今年は多かったとか、負担感とかが分からず、持続可能な取組というのが高まらないのかなと思います。来年度以降でいいですが、実際の運営に関するアンケートを取っていただいて、実際、どのあたりが良くないのか、どのあたりが良くなっているのかというの分かるようにしていただけたらと思います。</p>
<p>(横山 真弓 委員)</p>	<p>事前指導が、R4年度の指導が、R3年度よりも増加し、事後指導も増加している。一方で先生の準備が大変だったというようなアンケート結果があるが、一旦減らしたものが増えているのか、何か理由があって増えているのかその辺りいったんスリム化したのかなと思ったのが、また増えているのは何か要因等があるのなら教えていただければと思います。</p>
<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>事務局としましては、体験活動をして、それが実生活にいかにつくのが大きな課題だと感じている。そこをつくるための方法としては県の要項等の中にもあるように、事前事後の取組をいかに充実させるかが重要であるとされています。非常に多くの時間をお願いしている訳ではないですが、そこをつくような取組をお願いしたいということは、昨年度、今年度も学校に伝えているところです。何とかつくようと考</p>

<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>えてやっていただいた結果であるというふうには思っております。</p>
<p>(田村 奉千 委員)</p>	<p>活動期間が、3日から5日になり受け入れ先の変化や、新規事業所の開拓、生徒のニーズに合った事業所の開拓状況で分かっていることがあれば教えてください。</p> <p>実際、私のところは、中学校の上の歯科技工所をしていて、受け入れさせてもらってきました。申し訳ないですが、今年、5日間になって断らせていただいた、というのも各事業者とも、人材不足は、多分、どこも共通していると思います。5日間から3日間になって、3日間で慣れたというか、3日間で人をやりくりしながら受け入れ体制を進めてきたことを5日間に戻ると、実際、人員と仕事の量を含めて、まとめきれずにお断りさせていただいた経緯があります。</p> <p>この辺は、うちはそういう経緯でしたけれども、各事業者とも人材の確保であるとか、中学生の受け入れに対してどうしても仕事を止めて受け入れられると思うので、素晴らしい事業だとは思いますが、事業者の方とも万全の準備をして受け入れていくようにいかないといけないと思うので、実際の現場感というところで、なかなか調整が難しい事業者もあるのではないかなと思います。</p>
<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>はい、ご意見ありがとうございます。</p> <p>やはり3日から5日になると受け入れ先の体制を整えるのは大変なことだと思います。</p> <p>また新規開拓についても、新たな受け入れ先を見つけるのは本当に難しいと思います。特に美容室の受け入れ先があまりないようですが、よい開拓方法がありましたらご意見をいただくと助かります。</p>

<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>たまたま昨年末に理容美容の丹波市の協会の方が別のイベントをするからということでチラシを配って欲しいというような依頼がありまして、今年度の受け入れのタイミングで、何とか令和5年度、ネイル等に興味がある子が一定数いるということで、何とかお世話になれないだろうかという依頼をしました。それだったら聞いてみますというところまではお願いできましたが、結果としては受け入れをするという事業所はなく、今年度については、受入まではできませんでした。</p>
<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>令和5年度、市内各中学校及び校区推進委員会の取組状況についてお願いいたします。</p>
<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>令和5年度トライやる・ウィークの取組についての説明</p>
<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>ご意見がありましたらよろしく申し上げます。</p>
<p>(石塚 和彦 委員)</p>	<p>先生方におきましては、日頃、大変お忙しいということが新聞紙上等で見ているのですが、その中で更にこういったトライやる・ウィークといったことで大変ご苦勞されていると察するところでございます。</p> <p>そこで令和5年度の推進体制の中で、特に、ボランティアの確保というような項目がございます。その辺、今年度もボランティアを確保されて、先生方の支援や援助もされたと思うのですが、ボランティアにつきましては学校側が期待されている人数が期待値として充足しているのかどうか、昨年度が充足していなければ、今年度、こういった施策をさらに強化されるのか。その辺をお聞きしたい。</p>
<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>指導ボランティアというのは、学校から独自に来てくださると依頼をしている方ではなくて、各事</p>

<p>(小林 宏明 委員)</p> <p>(谷川 慎也 委員)</p>	<p>業所におられる従業員さんを指導ボランティアというような呼び名で呼んでいますので、その方たちのこととなります。トライやるを受け入れるにあたって指導ボランティアを各事業所で確保していただいています。これまで、その指導ボランティアが足りないので、うまく体験活動が進まなかったという苦情はありません。学校から補足があればお願いします。</p> <p>今、言っていただいたように指導ボランティアというのは、体験活動に参加する生徒に関わって事業所が配置していただくボランティアという意味ではないかと思っております。</p> <p>最初の話にありましたけれども、人手不足というようなことで各企業さん或いは施設等で中学生に関わっていただく方が不足をしてしまうと言うようなことで受け入れが厳しくなっているという意味ではないかと思っています。</p> <p>先ほど、事業所で3日間だったら何とか受け入れが可能だけれども、5日間だったら受け入れが難しくお断りがあったという話がありましたが、実際、コロナ禍の中とか、人出不足ということで、何とか3日間の受け入れで調整をしてもらえないかという事業者も実際に本年度ありました。</p> <p>そして、その3日間は、Aという事業所にお世話になるのですけれども、あとの2日間その生徒はどこかの事業所で活動するという事になり、その調整は、2日間だけ受け入れていただきたいという調整で学校としては忙しかったというか、調整が難しかったというところはあります。</p> <p>美容室も受け入れが少なく、この週は月曜日が定休で火曜日も続きの休みだとか、月火休みで、水木金の3日間というところもありました。何とか土日に活動させてもらえないかとお願</p>
-------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>いしたけれども、やっぱりその辺りは人手不足で難しいと言うことで美容室については3日間、そして2日間は他の事業所と調整することは、学校としては実際調整が難しかったり、課題があったりしたと思っています。</p>
(安田 真理 委員長)	<p>受け入れ先も人材不足などの問題があると思うのですが、学校の方で細かく調整をしていただきありがとうございます。</p> <p>今回、新規活動場所として何箇所か上がっていますが、この新規事業所の受け入れ状況や、生徒たちの希望はどのような感じなのか、分かれば教えていただきたいと思います。</p>
(小林 宏明 委員)	<p>柏原中学校は、柏原の郷で参加生徒は2名でお世話になることになっております。他校の様子は分かりかねます。</p>
(谷川 慎也 委員)	<p>春日中学校ですが、新規で株式会社 Good があります。これまでから自動車関係でお世話になっていましたが、今年度からジェラートとかアイスクリームの製造の中で受け入れができますということでした。子どもたちの希望者も非常に多く、全員可能にしていきたいという調整もしましたが、ちょっと難しいということで第2希望の方へ回ったという生徒もいるぐらい人気がありました。</p>
(中川 卯衣 委員)	<p>山南中のサービスわくわくというのは、デイサービスわくわくというところで、デイサービスです。毎年、受け入れてきたけれども、コロナで受け入れを停止していたのを、今年、再開したという形で、老人の介護の事業所で、毎年8人とか10人の受け入れをしていたと思います。</p>

<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>hanauta graphics については、イラストレーターの仕事を体験してもらおうと聞いております。丹波市文化体験の1つの事業所です。丹波市文化体験につきましては、この市の推進協議会の中で、文化体験という事業所がないけれども、どうしたらよいただろうと議論になった時に、丹波市のまとめ役をしている方に、お願いしたら何とかなるのではないかとお願いいただきまして、実際にお願いしたところ、今まで一日ずつを3事業所でお世話になっていたが、今回は5日間ということで2日、2日、1日ということで、同じく3事業所で分けてやっていただいています。</p> <p>毎年、距離もあるので、すごい人数が希望するかというと、そうではないですが、それでも少しずつ人数が増えてきている状態です。今年度についても5名の受入希望でした。初年度は4名の受入希望であったと思うのですが、去年5名になって、今年も1人増えて、何とか6名でと言ったら、いいですよと言って頂いて、氷上、春日、青垣と3ヶ所全然違うところに行きますが、非常に希望は多くなっています。</p> <p>谷水加工板工業については、氷上中学校区の事業所になりますが、ものづくりが好きな子を、是非、丹波市内全域で募集をかけてほしいということで市内全域から聞きました。残念ながら最初は1人も希望がありませんでした。場所がどこなのか分からない、名前を聞いただけでは何をしているのかがよく分からないというので希望者がなかったのですが、ものづくりが好きな子に呼び掛けてほしいと、再度依頼したところ、氷上中学から3名行きたいという子が出てくれまして、非常に事業所の方も喜んで受け入れをしていただけていると思っています。</p>
<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>やはり新規のところに関しては、どのような事している事業所なのか、もう少し生徒に対して分</p>

<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>かりやすくアピールする必要があるのかなと思います。</p> <p>例えば、その会社が作っている物の画像を見せるとか、この会社はどのような思いで仕事されているのかを生徒さんに分かるように伝えていただければと思います。</p> <p>お願いします。</p> <p>事業所訪問のことについてですけれども、これまではどのようなかたちで実施してこられたか教えていただけますか。</p>
<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>それぞれの学校で、乗り合わせもしくは 何台か車を出してもらって、新規で受け入れていただいた所だとか、今まで実際に見たことがない所を中心に3つ4つをピックアップして巡回するというようなことをコロナ前はされていたと思います。</p> <p>ただ、なかなか難しくなったので、今は、完全に止まった状態になっています。</p> <p>この推進協議会の中でも 1つ2つ丹波市内の中でも、特色のあるところに行くと言うようなことも実際はありました。</p>
<p>(田口 勝彦 委員)</p>	<p>事業所が受け入れを提案しても一度も来てくれなかったという事業所がだいぶあるのですか。今回の結果で。大体の申し出た事業所には誰かが行くような状態になっているのですか。</p>
<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>私自身は、それぞれの学校の校区推進員会へ行かせてもらっていますので、9割ぐらいは、受け入れてもらっています。1人2人とか、1日しかないなど、日数が5日間じゃないというところもあるとは思いますが。おそらく各校で1割ぐらいは、希望生徒がなく受け入れを断わっていると思います。生徒の希望を優先しているので、学校か</p>

	<p>らすると受け入れがないことでお断りをすると ころが出てきています。各学校もそれぐらいです か。</p>
<p>(谷川 慎也 委員)</p>	<p>春日中学校では、今年度は5つの事業所に希望 者がなかったということでお断りをさせていただ きました。</p> <p>第一希望をなるべく優先させるような形を考 えましたので、お断りさせてもらって「残念です。 受け入れがないのですか。」と言われることもあ りましたし、「はい分かりました。」という事業所 もありました。</p>
<p>(小林 宏明 委員)</p>	<p>柏原中学校は、受け入れ先がたくさんある地域 です。今年度、生徒数が76名と少ないこともあ りまして、希望のない所は柏原中単独事業所 では、8か所あるという状況です。</p> <p>先ほど春日中が言われたように「残念です。」 というようなところもありますし、「そうです か。」というようなところも、やはり同じよう にあるような状況です。</p>
<p>(田口 勝彦 委員)</p>	<p>事業所で取り組んでいる事業というものに、な かなか中学生が理解してない部分があるのでは ないかと思います。私のところの社協もちょっと PR不足の部分が毎年あってなかなか来ていた だけないという部分があるので、就職説明会では ないですけども、何か機会ができたらなと思 うのです。うちはこのことやっていますので、 是非来てもらえませんかというようなPRをす る場があればうれしいです。それは、学校側と しては難しいですか。</p>
<p>(谷川 慎也 委員)</p>	<p>1つの事業所に限って、そういうPRするとい うのはちょっと難しいのかなということがあり ます。ただ、春日中学校では一年生の時に地域調</p>

<p>(田口 勝彦 委員)</p>	<p>べということで、実際に社会福祉協議会へ行かせてもらって、そこの活動を紹介するといった取組もしましたので、このような取組を活用できるのかなと個人的には思っています。</p> <p>一社だけというのは、それは当然難しいと思いますので、合同説明会みたいな事ができないかなと思います。ここにJ Cさんも来られていますのでJ Cさんでしたら、トライやる・ウィークを経験した方も結構おられるのではないかと思うので、ちょっとしっかり、自分の経験も踏まえてPRをしていただくとかですね、「是非とも中学生を受け入れるようにJ Cの会員、頑張ろう」というような言葉がけ等をお世話になれないのかと思うのですが。</p>
<p>(田村 奉千 委員)</p>	<p>青年会議所も講師派遣事業と言いまして、今日も行っているのですが、トライやるウィークに向けてということで、メンバー全員が中学生に対して挨拶練習だとか、働くっていうのはどういうことなのかみたいなことを、今年と一緒にディスカッションをさせていただく形式でさせていただきました。</p> <p>メンバー自身も、この取組の素晴らしさというのも重々わかっている状況ですので、またメンバーの方には積極的に受け入れていくように促していくような状態にできるようにしていきたいと思っております。</p>
<p>(坂谷 高義 委員)</p>	<p>地域の声です。令和4年に私どもの地域に3日間しかなかったのですが、最後の1日に、ボランティア活動をしました。小学校区の自治会長と一緒に一斉クリーン作戦みたいなことを一日したことがあるんですけども、私も一緒に小学校区も回って同席させてもらって大変よかったということがあったので、学校にはそういうことも考</p>

<p>(小林 宏明 委員)</p>	<p>えられているのかとお聞きしたいと思います。</p> <p>トライやる・ウィークという事業として考えた5日間という日程の中では、ちょっとそれは難しいかなというふうには思っているところです。それとは別のボランティア活動で、中学生が地域に出かけて別事業としてであれば、可能ではないかと思えます。</p>
<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>ありがとうございます。 よろしくお願いします。</p>
<p>(坂谷 高義 委員)</p>	<p>地域の自治会長たちからも、自分たちも、子供たちも、接点ができて話ができるようになったということを知っています。また、考えてみてください。</p>
<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>地域とのつながりも、今後、大事だと思いますので、何か別のかたちで続けていけたらと思います。ありがとうございます。</p>
<p>(日下 智之 委員)</p>	<p>一点だけご存じであれば教えて頂きたいと思いますが、今は企業のほうがコロナも落ち着いてきておきまして、徐々に 精密工業、IT業、サービス業につきましても業績も落ち着いてきているという状況です。そういった中で人材不足というのは、かなり顕在化してきているという状況でして、求人を出したとしてもなかなか人の雇用に結びつかないところではあります。そうところの中でトライやる・ウィークという事業所体験というのは、非常に良い機会だと思っております。過去に、例えば、そういう部分で従事された方が、将来的にこの丹波市に戻ってこられる、ないしは、この丹波の魅力を感じ取られて、その事業の方の雇用に結びついたというようなそのような案件というものがあれば、教えていただけ</p>

<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>たらと思います。</p> <p>今話していただいたようなことが、それぞれの校区推進委員会を学校ごとで行っている中では、議論に上がることもありまして、「実際にうちに来ている子は、トライやる・ウィークで、一回、体験した子が来てくれとんや。」というようなことを事業所側から言われたところがあります。</p> <p>特に小学校とか、学校現場とか、幼稚園とか、こども園については、特にそこでの経験が機になって、自分がそういう職業を選択したというのは、一定数いると思いますので、何人いるとか、というところまでは把握はできてないのですが、やはりトライやる・ウィークで経験したことが一つのきっかけになったと言う事は聞いております。</p>
<p>(日下 智之 委員)</p>	<p>活動分野別の参加予定者数の所を見せていただくと、どうしてもその偏りがあると思うのですが、教育関係や公的な関係のところ集中してきていると思います。将来的に雇用に結び付けていくと思えば、先ほど言われていたように、企業自身がどういった商品であったりとか、どういったサービスであったりとか、そういう部分を魅力的に発信していくというところも必要ではないかなというふうに思いますので、こういったところも続けて、トライやる・ウィークに来ていただくというときに合わせて企業努力の方も行なっていく必要があるのかなと思います。</p>
<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>商工会様が公開されている「虹色タブレット」というホームページは、子どもたちが見てもすごく分かりやすいと思います。できたら学校の方から、こういうホームページがあるということを紹介できればよいかと思います。よろしく願います。</p>

<p>(宮野 さおり 委員)</p>	<p>後、保護者の方から何かありましたらご意見いただければと思います。</p> <p>あの長男も、次男のときはコロナでなかったのですが、それこそクリーン作戦であったと思います。三男も昨年経験させてもらいました。親の立場としたら本当に経験させてもらいたいというところのような会があるということ今回初めて知りました。皆さん、なかなかご存じないのかなと思います。先生のご苦勞、受け入れていただく企業様のご苦勞とかいうのが、なかなか親はわかっていないかなということ今ちょっと反省しているところです。</p> <p>受け入れてもらう事業所さんにはトライやるウィークでこういうことを学ばせてくださいということは何か書面でお渡しをされていたりしますか。</p>
<p>(小林 宏明 委員)</p>	<p>トライやるノートというのがあるのですが、その中でも一般的なことは書いていると思います。ただ、具体的にこの職種では、こういうようなことを学ばせてほしいとは書いていないとか伝えていないというところです。</p> <p>挨拶のことが書いてあったと思うのですが、そういったことはしっかりと事前指導の中で話をしていますし、コミュニケーションとか、そういうふうなところは指導もしているところです。</p>
<p>(宮野 さおり 委員)</p>	<p>ありがとうございます。送り出す立場と逆に受け入れる立場となったこともあります。子どもの気づきってすごいなと思うというか、そういう目で見ているのだな、見られているのだなというように思うことが何回かありました。教える立場として自分の子と同じ年代の子がきた時に、どのように教えようかなというようなことも、お母さ</p>

<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>ん、お父さんの立場の方は、思われている方もあるのではないかなと思っております。</p> <p>いろんなところで協力をさせてもらえたらなと思っております。学んだことで、そんなことを思って丹波に帰ってきたいなというような子がたくさんあれば嬉しいと思っております。また、PTAの方でもそのような機会にお話をさせていただけたらと思っております。</p> <p>うちの子も令和4年度に体験させていただき、それ以降、お店に入った時にスタッフの方とお話する機会があるのですが、これまでとちょっと違った視点で見えていたり、子供から出てくる言葉が変わってきたりしたなど実感しています。このように実際、働く現場を見させていただくことで、子どもたちがこんなにも成長するのだと思いました。</p> <p>先生方や推進員の皆様にはたくさんのお願いをすることもありますが、今後ともご協力いただければと思います。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
<p>(田村 奉千 委員)</p>	<p>なぜ、5日間にこだわるのかなと思ってお話を聞いていたのですが、令和5年度のトライやる・ウィークの実施に向けてのところで1日目は緊張してといった内容がずっと書かれています。アンケートを見ると3日間、充実したというところがすごく多いと思うのですが、この5日間というのを見直しされる予定はございますか。</p>
<p>(池内 晃二 次長)</p>	<p>これは、丹波市で決められないのです。兵庫県で決めていますので、丹波市が3日間の希望があるのだとかという声が上がったとしても、丹波市が3日でしますとか言えなくて、5日でやらざるを得ないと言う状況です。</p>

	<p>3日であれば受け入れられるというところ、先程、谷川先生が申し上げられましたけども、3日と2日にくっ付けて学校で工夫していただいて実施しているというのが現状です。</p> <p>昨年まではコロナの影響で3日間、事後事前に2日間ということでやってくださいという県からの指示でしたので、申し訳ありませんがご理解ください。</p>
<p>(田村 奉千 委員)</p>	<p>分かりました。</p> <p>ちなみに県にはそういう要望を全く上げられないのですか？</p>
<p>(池内 晃二 次長)</p>	<p>ずっと上がっていますし、いろんな声が上がっています。それこそ教員の負担の事も、いろんなことも上がっているということです。</p>
<p>(田村 奉千 委員)</p>	<p>私は、整備工場のトライやる・ウィークに行かしていただいて、そのまま整備士の免許をとって整備士になったので、この体験はすごく本当に実りあるものだと思っております。できる限り持続可能な体制で受け入れ先の方も増やしていけるように、是非、続けていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>今、話ししていただいたところで、3日間が2年続いたのが、今回、5日間ということになるので、アンケートを経年ですっと取っていますので、結果がどのように出てくるか、すごく私自身興味がある部分もあります。また、今度の第2回の時には、そのあたり報告できたらと思っておりますのでお願いします。</p>
<p>(安田 真理 委員長)</p>	<p>皆様、長時間にわたりありがとうございました。本年度は5日間のトライやるウィークになります。これを通じて、子どもたちが未来を考える</p>

<p>(平瀬 憲利 事務局)</p>	<p>きっかけになれば良いなと思いますの良い取組になりますよう皆様にご協力をお願いいたします。本日は長い時間をいただきありがとうございました。本日の会議を終了させていただきます。</p> <p>皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。</p> <p>第2回目の推進協議会は12月の終わりを予定しておりますので、また近づきましたら案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p>

--	--

--	--